



家族らの優しさで 素晴らしい滞在に

山田中 山崎裕史君

僕が一番いい経験になったと思うのはホームステイです。僕は英語が苦手で、ちゃんと話せるか心配でしたが、ホストファミリーの人たちは、分かりやすいジェスチャーをしたり、あらかじめ日本語を調べたりして、いろいろと話し掛けてくれました。慣れてくると、自分からも話し掛けられるようになりました。あと、「何か飲む?」「眠い?」などと声を掛けてくれたので、毎日楽しく過ごすことができました。オランダ滞在が楽しくできたのはホストファミリーのおかげだと思います。このオランダでの経験をこれからの学校生活などで生かしていきたいです。

親友と再会したい 気持ちでいっぱい

山田中 白土淳美さん

最初、言葉がなかなか通じなく不安なホームステイでしたが、知っている限りの英単語を使って会話をしていたら、だんだん楽しくなってきました。ホームステイ最後の夜、親友のヒルダが「I miss you (あなたがいないと寂しいな)」と言ってくれた時は、またいつかオランダに行こうという気持ちがあふれてきました。別れの朝、もう会えなくなると思うと泣かずにいられました。わたしは、この6日間で言葉が通じなくても心で通じ合えることを知りました。この体験はわたしの将来への第一歩として、心の中にずっと残しておきたいと思います。



朝のミーティングで積極的に会話する生徒たち



クリステリック・カレッジでの歓迎セレモニー

主な行動日程〔1月〕

- 5日 本町出発
- 6日 アムステルダム市着
- 7日 ザイスト市のクリステリック・カレッジで歓迎会/市内見学(ザイスト城など)/市役所を表敬訪問
- ※13日まで市内でホームステイ
- 8日 クリステリック・カレッジの授業に参加(9日まで)
- 10日 ホストファミリーと小旅行など/夜は「さよならパーティー」
- 11日 アーネムやユトレヒトの市内見学(クロロ・ムロー国立美術館、デ・ハール城、オルゴール博物館など)
- 12日 ロッテルダム日本人学校を訪問/キンデルダイクの風車群見学
- 13日 ハーグ市内見学(国会議事堂など)/日本大使館表敬訪問/アムステルダム市内見学(ゴッホ美術館など)
- 14日 アムステルダム市内見学(国立博物館、アンネ・フランクの家など)/大堤防見学/アムステルダム市発
- 15日 帰町

短い間でしたが、ザイスト市では国境を越えた交流が積極的に行われました。生徒たちは言葉の壁をもとせず、ザイストの生徒たちやホストファミリーと溶け込み、温かい心と心のきずなを結び合いました。十三日の朝には、感謝と感動の涙の中でザイストの人たちとお別れしデン・ハーグ市へ。日本大使館の表敬訪問やゴッホ美術館の見学など、オランダの素晴らしい文化に触れることができました。生徒たちは、このようにオランダでの体験を通じ、国際的な視野と友情の輪を大きく広げ、数々の思い出を胸に十五日全員無事に帰町しました。

出発前の不安げな表情がうそのように「帰りたくない」「また必ず来る」などと話し、ジュニア海外使節団としての大役を果たしたその瞳には明るさと自信があふれていました。心と心の交流は、何よりも「歓迎精神」によって深められるということをおランダの方々から教えられた十一日間。子供たちは初めての異国の地で、よく頑張ってくれたと思います。この体験交流は、子供たちの今後の人生にとって素晴らしい糧となるとともに、本町とザイスト市、そしてオランダとの友好のきずなをより太くしたと思います。

友好のきずなは一層太く

ホームステイでの 体験を今後の糧に

山田中 豊間根 加奈さん



わたしは、出発してからオランダに着くまで不安でいっぱいでした。特にホームステイでは、言葉が通じるのかすごく心配でした。しかし、オランダに着いてすぐに建物や風景の素晴らしさに感動し、不安も少しずつ無くなっていきました。11日間の中で一番心に残っているのは、やっぱりホームステイ。ホストファミリーは、英語がうまく話せないわたしに、優しくゆっくりと日本語も使いながら話してくれました。今回、ジュニア海外使節団員として、オランダに行けて本当に良かったと思います。この思い出を大切に、何事にも頑張っていきたいです。



お世話になったホストファミリーと記念撮影(さよならパーティー)

驚きがいっぱいの オランダでの生活

豊間根中 平野原 直人君



「コンニチワ」。ホームステイ先の生徒が、一番初めに言ってくれた言葉です。その生徒の名前はシッコという14歳の男の子です。シッコに「自分の名前を日本人に言ったら笑うのはなぜ?」と聞かれ、困ってしまいました。オランダ滞在で一番楽しかったのは学校生活。学校の中にお菓子の自動販売機があったり、授業中にガムをかんでいる人がいたりして正直驚きました。向こうの生徒の形にとらわれないで自由に伸び伸びと勉強している姿が印象的でした。今回のオランダ派遣で得た事を、これからの生活で生かせるように頑張りたいと思います。

心に消えずに残る オランダの思い出

豊間根中 木村 みずきさん



ホテルでの暗い顔がうそのように皆が笑顔になったのは、ホストファミリーと会った直後のことでした。不安がっていたホームステイは、ホストファミリーに会って、「何とかやっつけよう」と皆安心しました。オランダの街並はとてもきれいで、わたしたちが2日間授業に参加したザイストの学校も、レンガ造りのきれいな学校でした。授業の内容は何をやっているかをだいたいつかめる程度で、詳しく分かりませんが、それでもおもしろかったです。ホームステイや観光、学校…。オランダでの思い出は、強くわたしの心で消えずに残るでしょう。

オランダでの体験 将来に生かしたい

山田中 佐藤 郁民君



僕にとって、オランダでの体験は、いつまでも忘れられない思い出となりました。言葉の壁はありましたが、何とかジェスチャーでコミュニケーションをとることができ、日を追うごとにオランダの生活に溶け込むことができました。ホストファミリーの優しさに触れ、言葉や文化、生活習慣が違っても相手を思いやる気持ちがあれば、心と心が通じ合えることが分かりました。そして、家族や友人の大切さをあらためて感じました。このオランダでの素晴らしい体験を生かして将来の夢へ向けて僕なりに頑張りたいと思います。

家族らの優しさで 言葉の壁を越えた

山田中 佐々木 真琴さん



言葉の壁を乗り越え、家族の温かさに支えられたホームステイ。この体験は、わたしにとって一生忘れられない思い出となりました。対面からお別れまでホストファミリーはいつも優しく接してくれました。自分の話す英語が通じるか不安でしたが、辞書やジェスチャーで少しずつ会話ができるようになりました。お別れの朝は、自分の本当の家族と別れるような気持ちで涙が止まりませんでした。そんなわたしに「また来てね」と言葉を掛けてくれたホストファミリー。この貴重な体験を生かし、英語をもっと勉強して将来の夢に一歩一歩近づいていきたいです。